

事例2 第2学年 内容項目：A 真理の探究

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| ・問題意識をもたせる導入 | ・主人公の気持ちの変化に気付かせる発問 |
| ・戦争の真実を追い求めることを多面的・多角的に考えさせる問い返し | ・ねらいとする道徳的価値の意義について考えを深める問い返し |
| ・自分を見つめ振り返って書く活動 | |

1 主題名 真実を追い求めて

- 2 **ねらい** 主人公の生き方から真実を求める意義について話し合う活動を通して、真実を求め続けることが、社会の幸福、自らの人生の豊かさにつながることに気づき、真実を大切に、新たな見方や考え方を取り入れて人生を豊かにしようとする態度を育てる。

教材名 「戦争を取材する」(出典：「中学道徳 あすを生きる2」日本文教出版)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、内容項目「真実を大切に、真理を探究して新しいものを生み出そうと努めること。」に関するものである。

「真実」とは、うそや偽りのない本当の姿のことである。「真理」とは、全ての人々が認める普遍的で妥当性のある法則や事実、正しい在り方などのことである。偏った狭い独善的な見方や考え方にとらわれることなく、うそや偽りのない本当の姿を大切に、いかなる力をもってしても否定できない普遍的な真理を探究することが求められる。

グローバル化や技術革新の進展するこれからの社会においては、これまで経験したことのない課題に直面することが予想されることから、自由な発想で新しい考えや方法を生み出し、主体的に自分の人生を切り拓いていくことが求められる。そのためには、よりよく生きたいという願いを基盤として、疑問や問いにこだわり、試行錯誤を重ねつつ妥協することなく物事の真理を探り、見極めようと探究し続ける生き方が重要である。

指導に当たっては、社会の発展に貢献した人々の生き方や探究心を支えたものについて考えさせる。そのことを通して、「物事を多面的・多角的に見ようとする開かれた心」や「目の前の現象だけで判断せず、疑問や問いを探究し続けること」が、新たな見方や考え方を創造することにつながり、社会全体の発展や自分の人生を豊かにすることに気付かせたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

道徳科では、昨年度、「ミスターヌードル—安藤百福—」(出典：「自分を見つめる1」あかつき)という教材を用いて、失敗を繰り返しながらも意欲的に様々なものから学ぶ大切さを知り、工夫して新しいものを創造しようとする態度を育む学習を行った。

本学級の生徒は、教師の指示に対して誠実に行動することはできるが、出された課題についてその本質を考えようとしたり、自分の判断で解決に向けて行動できたりする生徒はまだ少ない。また、流行やうわさ、SNSなどの情報を安易に信じてしまい、他者の力や判断に頼ろうとする受け身の様子も見られる。埼玉県学力・学習状況調査の質問紙調査結果では、学習に対して粘り強く取り組むことができると回答した生徒が多い反面、学習の仕方を自分で考え、工夫改善していると回答した生徒は少ない。

真実を求め続けるには、情報を鵜呑みにせず、疑問や問いをもち、主体的に自問自答し続ける意志や、他者との対話を重ねて新たな見方や考え方を見出し工夫改善しようとする心を育成することが必要である。このような意志や心をもつことが、自分を成長させる力になり、さらには集団や社会を成長させることにつながることを自覚させたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、ジャーナリストである山本美香さんが、迷いや葛藤をもちながらも紛争地域の取材を続ける中で、ジャーナリストとしての役割である真実を求め続けることの意義に気付く話である。山本さんは、自分の仕事に迷いを感じながらも、ジャーナリストの役目について考え続け、行動し続ける。その中で、目の前の苦しむ人々を医師のようにすぐ治療することはできないが、真実を世界中に知らせることで、戦争を止め、世界が平和になるための力となれることに気づき、自信をもってジャーナリストという仕事に打ち込む決意をする。山本さんの気持ちの変化から、真実を求め続ける意義について考えさせる。

そこで、主に次の場面を基に話し合うことにする。

①「自分が本当にちっぽけな存在だ」と感じていた山本さんが、「私がこの場所に来たことにも意味がある」と戦争の真実を追うことへの考え方が変わった場面。

ジャーナリストとして戦争の真実を伝えることは、世界中の人々の意識を変え、戦争に苦しむ人々を救うことにつながると気付いたことや、そこからジャーナリストという仕事にやりがいや喜びを見いだした山本さんの心情の変化について話し合わせる。

②息子を亡くし涙を流す父親から感謝された場面

戦争の真実を伝えることは、苦しむ人々に希望を与え、戦争をしていない国の人々に悲惨さを伝え、世界の人々に自分たちに何ができるのか考えさせるきっかけとなるなど「戦争の真実を伝えることの意味」について焦点化して考えさせる。また、社会貢献のみに止まらず、戦場の取材や、現地の人と過ごす中、山本さん自身が知識や経験を広げ、人生を豊かにしていることにも気付かせる。

なお、このように教材を活用して考え、話し合った後には、「真実を知ろうとすることの意味」という価値の本質について考えさせたい。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 自分との関わりにおいて真実を知ることは必要かどうか考える。 ・新しいことや本当のことを知ることは、みんなにとって必要なことですか。また、それはなぜですか。	【必要なこと】 ・新しいことを知ることはおもしろいから。 ・本当のことがわからないと不安だから。 【必要ではないこと】 ・今のままでも困ってはいないから。 ・自分に関係ないことは知らなくてもいいから。	・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする中で、問題意識をもたせるようにする。 ・考えを自由に発言できるような雰囲気づくりをする。
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">問題意識をもたせる導入</p> <p>T：本当のことや新しいことを知ろうとすることは、みんなにとって必要なことですか。</p> <p>S：どちらかというとな必要なことだと思う。</p> <p>T：なぜですか。</p> <p>S：本当のことは知らないはずだと思うから。</p> <p>S：噂がうそなら本当のことを知って誤解を解きたいから。</p> <p>T：確かにそうだね。他に意見ありますか。</p> <p>S：必要じゃないと思う。</p> <p>T：なぜですか。</p> <p>S：知らない方がいいこともあるから。</p> <p>S：本当のことを知ってショックを受けるから嫌です。</p> <p>T：なるほど。知りたい真実と知らない方がいい真実があるということですか。</p> <p>S：でも、都合の悪い真実でも知った方がいいと思う。</p> <p>T：今のみんなはそう考えているのですね。では、今日は、真実を知って大切なことなのだろうか。それはなぜなのかということについて、みんなで考えていこうと思います。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 20%; text-align: center;"> <p>真実を追求する大切さについて考える機会が少ない生徒の実態を踏まえ、自分との関わりで捉え考えさせるようにした。</p> </div>			

	2 山本美香さんの活動について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・大変な仕事だな。 ・山本さんのような人がいるから、日本にいても戦争のことを知ることができると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらいとする道徳的価値に迫るため、教材の補足説明をすることを通して教材への関心を深めるようにする。
展開	<p>3 教材「戦争を取材する」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 「自分が本当にちっぽけな存在だ」と感じていた山本さんが、「私がこの場所に来たことにも意味がある」と戦争の真実を追うことへの考え方が変わったことで、山本さんの気持ちにはどんな変化があったのでしょうか。</p> <p>【補助発問】 山本さんは、この後どのように生きていくと思いますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝されたことで、ジャーナリストとしての役割を見つけることができた。 ・戦争を取材することで、困っている人を救うことができると分かり、もっと仕事をしたくなった。 ・戦争の真実を伝えることが、戦争を止められるほど意味のあることだと気づき、自分がやらなければならないと思うようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迷いがあり、なんとなく取材を続けていた主人公が、ジャーナリストとしての役割を自覚することで、真実を追うことの価値に気づき、より戦争を取材し世界へ発信しようとする気持ちが高まったことに気付かせる。
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>主人公の気持ちの変化に気付かせる発問</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>T : 自分の役割に気付いた山本さんは、この後、仕事への取り組み方がどう変わると 思いますか。</p> <p>S : バリバリ仕事しそう。</p> <p>T : そうだね。一生懸命仕事をするようになりそうだね。 その間に、どんな気持ちの変化があったと思いますか。</p> <p>S : 自分の仕事で戦争を止めなくちゃと思った。</p> <p>S : 戦争で困っている人がいることを他の国の人に分かって もらうには、自分が伝えるしかない。</p> <p>S : 感謝されたことで、戦争を取材することが困っている人を助けることになってい ると分かって嬉しかったから、頑張れるようになったと思う。</p> <p>S : 戦争の悲惨さを伝えるために、もっと色々な人と会って現実を伝えなくちゃと思 った。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 20%; text-align: center;"> <p>戦争を取材するこ とが社会のためにな っていると自覚 してからの主人公 の行動の変化に気 付かせる。</p> </div>			
	<p>(2)戦争の真実を伝える山本さんの行動は、何につながっていると思いますか。</p> <p>【補助発問】 ・真実を追うことは命を懸けるほど価値のあることなの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人のためになっている。 ・戦争の真実を伝えることで、戦争を止めるきっかけになるかもしれない。 ・世界平和。 ・自分のやりたいことが 	<ul style="list-style-type: none"> ・真実の追求が、世界の平和への貢献だけでなく、主人公の人生が充実することにつながっていることにも気付かせる。 ・話し合いを深めるため、問い返しを行い、社会とのつながりだけでなく、主人公の人生の充実にも影響を与えていることにも

だろうか。

困っている人の役に立
っている。
・人生の充実。

れ、それらは全て真実を追うこ
とと関連があることに気付か
せる。

戦争の真実を追い求めることを多面的・多角的に考えさせる問い返し

T：山本さんは、戦争の真実を伝えるために紛争地域に行って活動しています。こう
した行動は、どんなことにつながっていると思いますか。

S：戦争を止めることにつながる。

S：平和な国にいる人たちが困っている人をどうやって助けようかと考えるように
なる。

S：山本さん一人だと何もできないかもしれないけれど、こういう本に載ることで広
まってみんなが戦争を考えることになる。

T：なるほどね。戦争の真実を伝えることで、戦争を止めたり困っている人を助けた
りすることができるのですね。山本さんは命を懸けて戦争の真実を取材しに行っ
ていますね。真実を追うことはそれほど価値のあることなのでしょうか。

S：価値のあることだと思う。

T：なぜですか。

S：直接行ってそこにいる人たちに聞くことが大切だから。

T：なぜ大切なのでしょうか。

S：直接話をするとその人たちの気持ちや生活の様子も正
しく知ることができると思うから。

S：実際に困っている人の話には説得力がある。

S：あと、山本さん自身が自分の仕事にやりがいを感じているから価値があると思う。

T：真実を伝えようとすることは、困っている人を助けることになるだけではなくて、
山本さん自身のためにもなっているということですか。

S：色々なことを知ることができて山本さんは楽しいと思っているかも。

S：知識が広がるから、自分が成長できているんだと思う。

S：自分の仕事が、みんなを救うことになると思ってるから人生をかけている。

戦争の真実を追い求
めることは社会のた
めだけでなく、山本
さんの生き方にも影
響していると気付か
せる。

(3)真実を知ろうとすることは、なぜ大切なのだろうか。
(中心発問)

- ・自分の知識を深め人生を豊かにすることにつながるから。
- ・真実を知ろうとする過程で、自分から考えたり行動したりするので自分の生活や生き方が充実すると思うから。
- ・真実を知るとは、自分がどう生きるか考えるきっかけにもなるから。
- ・私たちが気付いていない社会の問題を知ることが、誰かのために自分ができることを考え行動するスタートになると思うから。

- ・書く活動を取り入れ、真実の追求に対する自分の考えを深めさせる。
 - ・小グループ→全体で話し合う。
- ☆真実を追求する大切さについて、多面的・多角的に考え、友達の考えも取り入れながら、自分の考えを深めている。
(発表・記述)

ねらいとする道徳的価値の意義について考えを深める問い返し

T : 授業の最初に真実を知ることの大切さについて質問しましたね。ここまでの話合いを通して、考え方が変わった人はいますか。

S : はい。(挙手)

T : 結構いますね。どうして変わったのですか。

授業初めの考えとどう変わったか考えさせる。



S : 真実を自分で見たり聞いたりすることは大切だと感じたから。

T : なるほど。それを身近に感じるのはどんな時ですか。

S : 勉強で分からなかったことを調べて分かったとき。

S : 友達の噂話が、最初聞いていたものからどんどん変わっていついってるとき。

S : 新聞やニュースを見ているとき。

T : 身近にもたくさんありそうですね。なぜ知ろうとすることが大切なのか、具体的に考えてみましょう。

S : 世界で起きている問題や、困っている人がいる事実など、自分から知ろうとしないと思えないことがたくさんあると思う。それを知ることによって人の役に立てることがあるから。

S : 知らなくてもいいこともあるかもしれないけれど、これからは生かせるから。

T : なるほど。でも、それって難しくないですか。知ろうとするって、勇気もあるし、手間もかかるし、面倒じゃないですか。人間関係も壊れるかもしれないし。どうでしょう。

考えを深める問い返し

S : そうだと思う。でも、例えば、友達と喧嘩とかになっちゃっても、話し合って解決できたらもっといい関係になるかもしれないから、本当のことを知ったほうがいいと思う。

S : 本当のことを知ることによって、その時は嫌な気持ちになったり、悪いことになったりすることもあるけど、知ったことについてみんなで話し合えば良いことに変わるから。

S : 本当のことって知ると怖いなと思うこともあるけれど、もし自分にとって嫌なことだとしても、自分が成長するチャンスだと思うから知ろうと思った。

S : 勉強とか知らなかったことを知るのには、自分のためになるし、もっとたくさん勉強したら、医者とか研究者になって、困っている人を助けられる。

S : 最初は自分に関係のないことは知らなくていいと思っていたけど、みんなの考えを聞いて、知らなくていいことってないな、色々なことを知った上でどう考えるのが大切だなと思った。

S : 私も知らなくていいこともあるかもしれないって思っていたけれど、知ることによってこれからは生かせるから大切だと思う。

- 4 自己を見つめ、今までの自分を振り返り、これからの生き方について考える。
- 今日の授業を通して、自己を見つめ考えたことを書きましょう。

- 私は知らないことはそのままでもいいと思っていたが、知ろうとすることで自分が成長することがわかった。
- 新しいことを学ぶことも、自分の人生を豊かにし、人の役に立つこともできると思った。今までは、分からない

☆今までの自分を振り返り、真実を追求する大切さについて、考えを深めている。(記述)

ことをそのままにして
 しまうときもあったけ
 れど、先生に聞いたり
 自分で調べてちゃんと
 理解したりしていこう
 と思った。

自分を見つめ振り返って書く活動



自分は正直、知らないことを知
 ることは怖くて、現実逃避をし
 ているところがあった。例えば
 戦争のことをや、しているテレビ
 番組などで放送していると、
 戦争の映像が怖くて、あぐちゃ
 ーノルを愛えてしまっていた。
 何でこんな残酷な映像をテレビ
 で流すのかと思っていた。けれ
 ど、戦場の現地生活など、そ
 の人がみんな知ってほしい
 現状TBSがあって、その現地の人の気持ちを
 人々が成長するのを感じた

今までの自分は自分に何が関わり
 のある「知らないこと」は自分が
 傷つきたくない理由で知ろうとは
 しなかった。しかし、今回の道徳
 の授業を通して「知ろうとするこ
 と」は自らの成長にもつながると
 いうことを学ぶことができた。
 私はこれから先、様々な「知らな
 いこと」と一つ一つ向き合っ
 て成長していこうと思う。

終末

5 教師の説話を聞く。

・真実を求め、自分の人生を豊
 かにしようとする事への意
 欲を高める。

「大多数の決定が常に真実とは限らない。」という言葉があります。私はこの言葉を聞いたとき、色々なことを考えました。情報を得る手段はたくさんあるし、情報もたくさん目にしますが、その目に見えること全てが真実かと考えると、それは違うと思います。「本当にそうなのだろうか。」と考えてみるのが大切だと思います。自分の目で確認したり、実際に話を聞きに行ったりすることは、勇気や手間のいることですが、真実を見ようとする思いに支えられた行動が、自分の考えを広げるチャンスに繋がると思います。

本時の板書

~真実を知ろうとすることは、なぜ大切なのか~

自分が立ち回れる存在... → 自分がこの場所に新しい意味がある!

戦争を止めなくちゃ!
 戦争の真実を伝えるのは私か!
 感謝してる → 嬉しい!
 困ってる人を助けたいから!
 もっと色んな人と会って伝えることが
 たくさんある!

知りたくなかった。見えなかった。知らなかった。知る → 人の役に立つこともある。(医師、研究者)
 知る → 勇気、覚悟、心と長たなるとも!
 解決するまで、かな?
 知る = 怖...嫌 → 成長のチャンス
 知らないこと... 怖い! どう着目か大事!

個人は価値の存在は何か...?
 ◎直接筋 ← 全部を知りたい
 他人の心... 心が真実
 ◎自分と比べて価値がある!

知ること...
 3人 必要 3人
 ・ウソだから嫌
 ・本当のことE知らない
 怖い!
 必要じゃない 30人
 ・知らないでいい
 ・知らない方がいいこともある
 ・困っていい
 ・自分E受けるのが嫌

5 他の教育活動との関連

- ・総合的な学習の時間における職業体験において、仕事を通じて自分の生き方を考える。
- ・授業中に書いた道徳ノートの記述を学級通信で紹介し、家庭との連携を図る。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・戦争の真実を求め続ける大切さについて、社会との関わりや主人公の生き方との関わりなど、多様な視点から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・真実を求め続ける意義について、自分との関わりで考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

戦争を題材として扱っているため、導入段階で山本美香さんが撮った写真を見せたり、情報を共有したりすることで、山本さんの生き方について親しみを感じられるようにした。発問(2)では、ジャーナリストという仕事の特性上、取材＝困っている人のためになるという考え方に偏りがちなので、小グループの話合いに教師が混ざり、生徒の発表に切り返しをしながら、山本さん自身の成長にもつながっていると気付かせることができた。

また、導入の段階では、真実を追うことに消極的な考えをもっている生徒も多かったが、小グループでの話合いでは、気持ちが落ち込むような真実を知っても、それが自分の成長の糧になったり、話し合うことで良い方向に向かったりするといった前向きな発言も見られた。

②自分との関わりで考える学習について

本時では、真実を追求する大切さについて自分を振り返りながら書く活動を取り入れた。自分を見つめる段階の前の話合いで、学習課題を自分のこととして捉えた発言が多く見られていたため、真実を追求することに消極的な考えをもっていた生徒も、今までの自分の生活や考えを振り返り、自分の気持ちの変化を記述している姿が見られた。

(2) 視点☆に基づく評価

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆真実を追求する大切さについて、多面的・多角的に考え、友達の考えも取り入れながら自分の考えを深めている。

真実を求めることの大切さについて、個人から小グループ、そして学級全体で話し合う様子から評価を行った。自分に関係ない真実は求める必要はないという考えの生徒が、自分と異なる友達の考えに接することで、新たな視点からねらいとする道徳的価値について考えている様子が見られた。

また、道徳科に限るものではないが、小グループでの話合いについては、他の教科においても取り入れているため、メモをとったり、司会の役割をしたりする姿も見られた。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆今までの自分を振り返り、真実を追求する大切さについて考えを深めている。

自己を見つめ、振り返る場面で道徳ノートの記述から評価を行った。今まで真実を追い求める価値について考える機会が少なかった生徒にとっても、真実の追求が、自分のためだけでなく、人のために役立つ可能性があることに気付いたり、自分が日頃取り組んでいることが価値あることだと気付いたりする記述が見られた。全ての真実を明らかにする必要はないと考えていた生徒も、自分の知識や考え方を広げることにつながり、成長の糧になるという考え方に共感する記述が見られた。

(3) その他

中心発問では、小グループから全体に広げて意見交換を行った。小グループでの話合いでは、全員が意見を言った後、お互いの意見に自分の感想や意見を述べるようにしたことで、単なる意見の出し合いではなく、相互のやりとりが生まれ、考えが深まっていく話合いとなった。全体での発表では、一人の意見だけではなく、他の生徒の意見も取り入れながら、グループの意見として述べている生徒もいた。自己を見つめ振り返りを書く活動でも、他の生徒の考えにふれながら、

